

令和3年度決算

統一的な基準による伊勢崎市の財務書類【一般会計等】概要版

はじめに

伊勢崎市では市民の皆様によりよく理解していただくために、平成20年度決算から「新地方公会計制度」に基づく財務書類を作成しております。平成28年度決算からは、これまでの取組を発展させた「統一的な基準」による財務書類を作成し、公表しています。

「統一的な基準」による財務書類は発生主義ベースで作成されますので、減価償却費のような現金の支出を伴わないコストの把握や、市の資産や借金といったストックの総体を一覽的に把握でき、従来の決算書では分からなかった情報を得ることができます。

貸借対照表（BS）

本市の資産は約4,238.9億円、負債は約792.6億円、純資産は約3,446.3億円です。資産に対する負債と純資産の割合は、おおよそ1：4です。

主な資産は、道路・橋梁、小・中学校などの有形固定資産であり、その金額は約3,920.9億円です。その他に投資及び出資金が約114.5億円、基金（固定資産及び流動資産）が約151.1億円、現金預金が約41.5億円、債権（長期延滞債権及び未収金）が約10.9億円あります。過去の不納欠損実績を踏まえると、債権のうち約1.0億円は、徴収不能と見込まれます。

主な負債は、地方債（固定負債及び流動負債）が約671.6億円、退職手当引当金が約103.5億円です。

固定資産	4,112億6,922万円	負債 ※将来世代の負担	792億6,211万円
道路・橋りょう・小・中学校など		地方債など	
		純資産 ※過去・現世代の負担	3,446億2,477万円
流動資産	126億1,766万円	現在までの世代負担額	
基金・現金など			
資産合計 ※市の財産	4,238億8,688万円	負債・純資産合計	4,238億8,688万円

市民一人あたり ※	
資産額	200万円
負債額	37万円
減価償却率	68.3%

純資産変動計算書（NW）

本市の前年度末純資産残高は約3,408.8億円、本年度末純資産残高は約3,446.3億円で、純資産が約37.5億円増加しました。主な要因は、純行政コストの減少よりも財源の減少が小さかったことにより本年度差額が約40.0億円増加したことによるものです。また、純行政コスト約705.9億円に対して、税収や地方交付税収入、国県等補助金等受入等の財源収入が約737.4億円であり、財源収入で純行政コストを賄えていることを表しています。

前年度末純資産残高	3,408億7,549万円
純行政コスト	△705億9,065万円
税収、国や県からの補助金など	737億4,479万円
無償取引による資産の増減など	5億9,514万円
本年度末純資産残高	3,446億2,477万円

市民一人あたり ※	
純資産	163万円

行政コスト計算書（PL）

本市の経常費用は約754.5億円、経常収益は約44.3億円であり、差引きしますと純経常行政コストは約710.2億円です。また、臨時損失は約1.0億円、臨時利益は約5.3億円であり、純行政コストは約705.9億円です。

純経常行政コストの内訳をみると、経常費用は人件費が約131.4億円、物件費等が約293.5億円、その他の業務費用が約8.0億円、移転費用が約321.6億円です。一方、経常収益は、使用料及び手数料が約9.9億円、その他の収益が約34.4億円です。

市民一人あたり ※	
純行政コスト	33万円

経常費用	754億4,919万円
業務費用	432億8,736万円
人件費 (職員給与など)	131億3,696万円
物件費等 (委託料、減価償却費など)	293億5,144万円
その他の業務費用 (借入金の利息支払など)	7億9,896万円
移転費用	321億6,183万円
経常収益	44億2,766万円
使用料及び手数料	9億9,213万円
その他	34億3,553万円
純経常行政コスト	710億2,153万円
臨時損失	9,742万円
臨時利益	5億2,830万円
純行政コスト	705億9,065万円

※伊勢崎市総人口（令和4年4月1日現在）212,178人により算出

おわりに

伊勢崎市は、計画的な予算編成と効率的で効果的な事業の執行に取り組みつつ、市広報紙やホームページにより、予算・決算の概要や年度の執行状況、財務諸表、予算編成方針などを積極的に分かりやすく公表することにより、透明で健全な財政運営に努めるとともに、財政に対する市民の関心度を高め、説明責任を果たします。

資金収支計算書（CF）

本市の業務活動収支は約87.2億円、投資活動収支は約△71.0億円、財務活動収支は約△14.7億円で、その結果、歳計現金が約1.5億円増加しました。

投資活動収支は、収支差額がマイナスとなっておりますが、これは公共資産や基金等への投資が進んだことを意味しており、財政が悪化しているということを示すものではありません。資金の流れに着目すると、業務活動収支の黒字額を、投資活動収支と財務活動収支の不足額に補填しています。

市民一人あたり ※	
現金預金残高	2万円

業務活動収支 (市税や業務費用など)	87億2,083万円
投資活動収支 (資産形成や貸付など)	△70億9,620万円
財務活動収支 (地方債の借入や償還など)	△14億6,878万円
本年度資金収支額	1億5,585万円
前年度末資金残高	32億3,573万円
本年度末資金残高	33億9,158万円

前年度末歳計外現金残高	7億8,929万円
当年度歳計外現金増減額	△3,093万円
本年度末歳計外現金残高	7億5,836万円
本年度末現金預金残高	41億4,994万円

お問い合わせ

〒 372-8501

群馬県伊勢崎市今泉町二丁目410番地

伊勢崎市 財政部財政課理財係

TEL 0270-27-2712（直通）

ぜひ財務書類の分析資料もあわせてご覧ください。

